

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H04408

研究課題名(和文) 多民族・多宗教国家マレーシアにおける移民の社会統合 宗教の互助機能に着目して

研究課題名(英文) Religious organisations as a reciprocal function in multi-ethnic, multi-religious Malaysia: the potential for mediating between migrant communities and Malaysian citizens.

研究代表者

篠崎 香織 (Shinozaki, Kaori)

北九州市立大学・外国語学部・教授

研究者番号：90573486

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：マレーシアには、植民地時代に形成された住民間の相互扶助の枠組みをもとに、独立期および独立後に政党政治に結びついて発展し維持されてきた経済的・政治的な枠組みとして民族がある。国民はマレー人、華人、インド人のいずれかの民族に属することで公的な資源配分を享受できる。本研究は、外国人がマレーシアで経済的・社会的な位置づけを確保するためにマレーシア国民と関係性を構築する際、宗教の違いによってマレーシア国民のうちどの民族と結びつくかが異なり、そのことが外国人のマレーシアでの暮らし方やその後の生き方の違いなどにつながっていくことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、マレーシア国民である3民族と外国人との関係が規模の面でも質の面でも深まっていった場合、3民族の内部に変化がもたらされる可能性があり、さらには民族を通じたマレーシアの社会構造も変化する可能性があるとの仮説を得た。この仮説は、マレーシア社会の長期的な変化を観察・分析するための視点を提供するものであり、マレーシア地域研究において学術的な意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：Bangsa in Malaysia is an economic and political framework that has been developed and maintained during and after independence, based on the framework of mutual assistance among the population formed during the colonial period and linked to party politics. Malaysian nationals can enjoy public resource allocation by belonging to one of three bangsa: the Malays, the Chinese or the Indians.

In light of this understanding, this study revealed the following. When foreigners establish relationships with Malaysian nationals to secure economic and social positioning in Malaysia, they usually establish relationships with one of the three bangsa. Even if they come from the same country of origin, they often come from diverse linguistic and religious backgrounds. These differences deter with which bangsa they build relationships. This further leads to differences in how they came to Malaysia, their eligibility to stay in Malaysia, how they live in Malaysia and afterwards.

研究分野：マレーシア地域研究

キーワード：マレーシア インドネシア ミャンマー フィリピン 東南アジア 移民 一時滞在者 バンサ

1. 研究開始当初の背景

国際移民労働者をめぐる課題に、移民労働者がいかにして適正な労働・生活環境を確保するかという課題と、移民労働者の受入国がいかにして出自や文化が異なる人たちを社会的に受け入れるかという課題がある。この課題に対し欧米諸国では、移民労働者に国籍を付与して権利を保証し、国民統合を進めることにより社会統合を図ってきた。しかし移民から国民となった人たちが経済的・社会的に周縁化されていたり、この対応をめぐり受入国で社会全体を巻き込む亀裂が生じていたりすることが指摘されている¹。これに対して、移民労働者は就労国での永住・国籍取得を必ずしも志向せず、出自国と就労国を往来しながら生活空間を構築する側面に着目する研究がある²。ただし出自国を同じくする移民の間にも、出身地、言語、信仰などの違いがあり、それに基づくサブカテゴリーでまとめ、そのレベルでの文化的共通性が越境するネットワークの構築に活用されることが多いとの指摘もある³。

こうした文化的共通性は、移民労働者と就労国の国民との関係構築にも活用されうるのだろうか。従来の研究は、移民労働者だけでなく、受入国の国民もまた文化的に多様である場合をあまり想定してこなかった。これに対して本研究は、多民族・多宗教国家から別の多民族・多宗教国家に移民労働者が移動して滞在する事例に基づき、上記の問いに答えるものである。具体的には、インドネシア、ミャンマー、フィリピンからマレーシアへの移民労働者とマレーシア国民との関係性の構築を、宗教に着目して考察する。

2. 研究の目的

東南アジア島嶼部に位置するマレーシアには、周辺地域や中国、南アジアから移民が流入した。これら移民は建国期に、マレー人、華人、インド人としてそれぞれまとめ、互いを民族として認め、多民族国家の建国を通じて社会統合を進めてきた。社会生活上の相互扶助も各民族内で行われ、互助機能を果たしてきたのは主に宗教であった。ムスリムであるマレー人はモスクやイスラム教組織・機関を通じて、また華人は仏教・道教寺廟を通じて、冠婚葬祭サービスの提供、高齢者・病人・貧者の救済、教育の提供・支援を通じて民族内で相互扶助を行ってきた。

1990年代以降マレーシアには、インドネシア、フィリピン、ミャンマーなど東南アジア周辺国から労働者が流入した。2018年現在、外国人人口の割合はマレーシアに居住する総人口の約10%を占める。正規滞在者と難民高等弁務官事務所（UNHCR）の難民認定者を加えると、外国人人口の割合は20%に達するとの推計もある。マレーシアでは近年、マレーシア国民の生活が外国人労働者に大きく依存しており、マレーシア国民には外国人に適切な労働・生活環境を保証する責務があるとの意識が広まりつつある⁴。

本研究は、マレーシアで互助機能を果たしてきた宗教を介して移民労働者とマレーシア国民との関係性を構築し、その関係性を通じて移民労働者が労働・生活環境の向上を図りうるという仮説を立て、それを検証する。

具体的には、仏教系寺院・組織（華人と仏教徒のミャンマー人）、モスク・イスラム教組織（マレー人とムスリムのインドネシア人、ミャンマー人、フィリピン人）、教会・キリスト教組織（華人とキリスト教徒のフィリピン人）を対象に、以下のことを明らかにすることを目的とした。(i)宗教施設・組織を通じてマレーシア国民と移民労働者との間に、冠婚葬祭サービスの提供をはじめ、国籍を越えた相互扶助が行われているのか、(ii)宗教施設・組織を通じた関係性が雇用関係など移民の経済的・社会的資本に変換されることはあるのか、あるとしたらそれはどのような関係性をマレーシア国民との間にあらたにもたらすのか。

引用文献

- 1 宮島喬 2006 『移民社会フランスの危機』岩波書店、近藤潤三 2007 『移民国としてのドイツ 社会統合と平行社会のゆくえ』木鐸社。
- 2 Schiller, Nina Glick, Linda Basch, and Cristina Szanton Blanc. 1995. "From Immigrant to Transmigrant: Theorizing Transnational Migration", *Anthropology Quarterly*, 68 (1), 48-63.
- 3 細田尚美編 2014 『湾岸アラブ諸国の移民労働者 「多外国人国家」の出現と生活実態』明石書店。
- 4 篠崎香織 2015 「越境者受け入れ地域としてのマレーシア 歴史的経緯と今日の世論」西芳実・篠崎香織編 『東南アジアの移民・難民問題を考える』、地域研究コンソーシアム、19-24。

3. 研究の方法

【研究体制】本研究は以下の研究体制により実施する。

| | 氏名 | 役割、調査・分析対象 |
|-------|------|----------------------|
| 研究代表者 | 篠崎香織 | 統括、華人社会の移民・就労者への対応 |
| 研究分担者 | 山本博之 | マレー人社会の移民・就労者への対応 |
| 研究分担者 | 西芳実 | インドネシアからのムスリム移民・就労者 |
| 研究分担者 | 細田尚美 | フィリピンからのキリスト教徒移民・就労者 |
| 研究分担者 | 水野敦子 | ミャンマーからの仏教徒移民・就労者 |

受入国・送出国をそれぞれ研究対象地域とする研究者により研究体制を組織し、マレーシア社会と移民コミュニティ双方の視点から研究を行う。

【研究方法】

(1)文献調査、(2)現地での聞き取り調査(スノーボールサンプリング調査)、(3)研究組織外の研究者との意見交換、(4)海外の研究者との意見交換、という4つの活動を順次進展させる。

(1)文献調査

マレーシア、インドネシア、フィリピン、ミャンマーの移民・労働移動に関する図書や定期刊行物を購入し、研究組織内で先行研究の理解を共有するとともに、移民労働者を取り巻く昨今の状況について理解を共有する。

(2)現地での聞き取り調査

クアラルンプール連邦直轄区(以下KL)、スランゴール州クラン郡、プタリン郡
インドネシア人とミャンマー人に聞き取りを行う。外国人労働者は、KLではサービス業と建設業の従事者が多く、クラン郡とプタリン郡には製造業、港湾運輸業、建設業従事者が多い。インドネシア人が集うKLチョウキット地区とミャンマー人が集うKLチャイナタウン地区、モスク、イスラム教系NGO、上座仏教寺院、仏教系NGOで聞き取りを実施する。

ペナン州北東郡、スランプライ中部郡

ミャンマー人に聞き取りを行う。北東郡では上座仏教寺院に集うマレーシア華人とミャンマー人にそれぞれ聞き取りを行う。スランプライ中部郡には製造業の工場が多くあり、その多くが華人経営者・雇用者である。ペナン州が建設した外国人労働者向けの居住施設がある。経営者・雇用者とミャンマー人労働者に聞き取り調査を実施する。

サバ州コタキナバル市

インドネシア人とフィリピン人に聞き取りを行う。サバ州の外国人労働者の多くはアブラヤシ農園の労働者である。コタキナバルにはサービス業従事者も多い。インドネシア人学校、アブラヤシ農園、モスク、カトリック教会、市中心の飲食店で、多様な就労分野において聞き取り調査を実施する。

(3) 研究組織外の研究者との意見交換

研究組織外の研究者を研究会に招き、意見交換を行う。欧米や日本など、異なる地域の移民と社会統合を研究する専門家を招き、マレーシアの事例に即したモデルの精緻化を図る。

(4) 海外の研究者・専門家との意見交換

現地調査の際に以下の機関で海外の研究者・専門家・実務家と意見交換を行う。

・関係省庁：人材省(労働行政)、スランゴール、ペナン、サバ各州政府

・国際機関：ILO移民労働者リソースセンター(KL、ペナン)、UNHCRマレーシア事務所

・研究拠点：マラヤ大学、マレーシア戦略国際研究所、マレーシア国民大学、マレーシア科学大学、マレーシア・サバ大学、サバ開発問題研究所

このほかに、海外の研究者・専門家を招聘して国際ワークショップを実施し意見交換を行う。

4. 研究成果

初年度の 2020 年度と 2 年目の 2021 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、海外渡航が大幅に制限され、思うようにマレーシアで調査を実施することができなかった。そうした中でも、文献調査とオンラインでの聞き取り調査を進めるとともに、オンラインで国内研究会を定期的実施し、南アジアや東アジアからの移民について研究している研究者や専門家も交えて、マレーシアの事例に基づく移民の社会統合モデル構築の可能性を検討した。

本研究はマレーシア地域研究であるとともに、移民研究とも密接に関連するため、2020 年度と 2021 年度に移民研究を中心に関連する先行研究の整理を行った。移民研究では、グローバル経済に直結して生存を図る強い個人として移民に着目する傾向があることを整理した。これに対してマレーシアの事例については、国家、民族、宗教、地域などの枠組みを互助機能として活用しながら、グローバル経済に接続する側面に着目することができるとの視点を得た。

2022 年度頃から、海外渡航の制限が徐々に緩和され、マレーシアでの現地調査も可能となった。しかしコロナ禍を経て移民・移住を取り巻く状況が制度面で大きく変わり、それを受けてネットワークのあり方や個々のインフォーマントの状況も大きく変わっていることがわかった。現地調査の体制の立て直しや、コロナ禍以降を分析対象とするのかも含めた大幅な枠組みの見直しが必要であることが研究体制内で共有された。

2023 年度は、最終年度であったため、研究組織外の研究者を交えて 2023 年 11 月にオンラインで研究会を実施し、それを発展させるかたちで 2024 年 1 月に日本マレーシア学会で公開シンポジウム「混成社会マレーシアにおけるフィールド調査のあり方をめぐって 科研費プロジェクトによる共同研究の経験から」を実施した。東南アジア・東アジア・南アジアを出自とする移民が、マレーシア建国の過程で、3 民族（マレー人、華人、インド人）のいずれかに所属することで、経済的・社会的相互扶助を享受する仕組みが作られてきたことを整理・共有したうえで、マレーシアで外国人が一時居住・定住する際にこの仕組みがどのように作用し、そのなかでこの仕組みに変化が生じる可能性に着目した。またマレーシア社会が 3 民族に当てはまる人たちだけでなく、3 民族に当てはまらないマレーシア国民や外国人によって構成されていることを踏まえ、マレーシア社会全体を理解するための方法論として、マレーシア以外の国・地域を主な研究対象とする研究者を含む共同研究をどのように組織し、その研究成果をどのように発表するのかについて検討した。その成果を論文にまとめ、学会誌に投稿するための準備を整えた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 SHINOZAKI Kaori | 4. 巻 82 (4) |
| 2. 論文標題 Book review: Ghost Lives of the Pendatang Informality and Cosmopolitan Contaminations in Urban Malaysia. By PARTHIBAN MUNIANDY. Palgrave Macmillan, 2021 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Asian Studies | 6. 最初と最後の頁 763-765 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1215/00219118-10773691 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 篠崎香織 |
| 2. 発表標題 檳城鶴山極樂寺の開山與教商關係 |
| 3. 学会等名 菩提履跡：馬來（西）亞第一代佛教人物研究學術研討會（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 篠崎香織 |
| 2. 発表標題 合同調査の組織と課題 混成社会マレーシアにおける移民の社会統合研究プロジェクト（2016-2023年度）の事例から考える |
| 3. 学会等名 日本マレーシア学会 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 細田尚美 |
| 2. 発表標題 非可視化という実践 サバ州在住フィリピン移民の調査の経験から |
| 3. 学会等名 日本マレーシア学会 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|----------------------|
| 1. 発表者名 山本博之 |
| 2. 発表標題 趣旨説明 |
| 3. 学会等名 日本マレーシア学会 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 篠崎香織 |
| 2. 発表標題 中華民国初期における議会の成立と華僑華人 華僑議員の派遣をめぐるペナン 華人の事例 |
| 3. 学会等名 辛亥革命110周年記念国際学術シンポジウム「東アジア世界と共和の創生」(招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 篠崎香織(分担執筆) | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 汲古書院 | 5. 総ページ数 34 |
| 3. 書名 「中華民国初期における議会の成立と華僑華人:華僑議員の派遣をめぐるペナンの華人の事例」孫文研究会、神戸華僑華人研究会編『東アジア世界と共和の創生』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|--|------------------------------------|----|
| 研究 分担者 | 水野 敦子 (Mizuno Atsuko) (10647358) | 九州大学・経済学研究院・准教授 (17102) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 西 芳実 (Nishi Yoshimi) (30431779) | 京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301) | |
| 研究分担者 | 細田 尚美 (Hosoda Naomi) (70452290) | 長崎大学・多文化社会学部・准教授 (17301) | |
| 研究分担者 | 山本 博之 (Yamamoto Hiroyuki) (80334308) | 京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |